

最近、SGの予選でフライングが相次いでいる。大村オーシャンカップでは初日1R、1号艇で小池修平がF。尼崎グランドチャンピオンでは2日目8R、4号艇で茅原悠紀がFに散った。茅原は8月のまるがめメモリアルでも2日目5R、3号艇でFを切った。Fのペナルティーは、賞典除外が一番最初に思い浮かぶが、その後のレースがすべて外枠となることも、選手にとっては地味にきつい。賞金は稼げないし、勝率を大きく落とす要因ともなる。

もちろん、売り上げ面を考えたの措置だとは思う（Fを切った選手は買にくい）が、Fをした選手の外枠縛りは、逆に売り上げを下げているのではないかと記者は考える。小池の場合はSG初出場だった。ずっと6号艇では、小池の出場するレースは、舟券を買う立場からすれば、実質5艇立てになってしまう（実際には4日目3RでSG初1着を挙げている。このレースでは1号艇の渡邊優美がF）。逆に茅原の場合、F後でも1号艇が回ってくれば、普通に

売れるだろう。

他の出場選手にも影響がある。予選で6号艇は48回あるが、Fを切った選手が何回も消費した結果、6号艇が回ってくる選手とそうでない選手が生まれるからだ。また、Fを切った選手に、まだ1号艇が来ていない場合、本来は1号艇が回ってこないはずだった選手に1号艇が回ることになる。それも運と言ってしまうはそれまでだが、公平さを考えれば、GII以上のレースでは予選の間だけでもF選手に均等に枠番を回すべきだ。

もし峰竜太が初日1走目にFを切った場合、施行者は2日目以降も1〜6号艇で普通に番組を組みたいはず。売れることは分かり切っているからだ。枠番を均等に回すことは選手にとっても施行者にとつてもウィンウィンなのではないか。2本目のFや事故率の関係で6コースに行きたい選手は、そうコメントしてスタート展示で外に出れば問題ないはず。ぜひF後の外枠縛りを見直してほしい。

予選の出走回数も見直しを

SG、GI、GIIの予選の出走回数にも違和感がある。ほとんどの場合、選考順位が上の選手からドリーム戦に選ばれ、選考順位上位の選手が予選6回走り、1〜6枠が均等に回ってくる。中位の選手は1号艇ありの予選5回走り、49〜52位（出場52人の場合）の選手は1号艇なしの予選5回走り（ただし6号艇なし）というパターンが多い。もちろん、ドリームに選ばれた選手が有利だが、それ以外では、ほとんどの選手が「1号艇ありの5回走り」が有利だと答える。

準優ボーダーを6点と考えた場合、5走なら合計30点が必要だ。1号艇で1着10点を取れば、残り4走で20点を取ればいい。6回走りの場合、1号艇で勝ったとしても、残り5走で26点が必要（しかも5、6号艇がある）。どちらが有利かは一目瞭然だろう。

今年3月の戸田・クラシック。予選最終日の4日目は、荒天のため7R以降が中止となった。このため予選4回走りや5回走りの選

手が続出。予選突破を果たした18人のうち、6走していたのは土屋智則だけだった。残りの17人は1号艇ありの予選5回走りか、予選4回走りの選手だった。

また、住之江のナイターGIではダブルドリームに乗った12人の予選突破率が極めて高い。各ドリームで1〜3着に入ると、4日目12Rのドリームエキシビジョンを走ることができからだ。このレースはノーカウントレースで、自力で予選を5回走り（1号艇あり）にすることができる。

まとめると、予選で最も有利なのは1号艇ありの5回走り。選考順位を重視するのではあれば、ドリーム組を1号艇ありの5回走りにするべきだし、選考順位の上から1号艇ありの5回走り、中位は1号艇ありの6回走り。下位は1号艇なしの5回走り（ただし6号艇なし）の順番にした方がいいのではないかと。最も、一番いいのは選考順位の順に、選手に予選の出走回数を選んでもらう方式。ほぼ間違いなくドリーム組は5回を選ばず、ぜひ一度試してほしい。

艇言

報知新聞

藤原邦充

藤原邦充（ふじわら・くにみつ）
1974年生まれ 50歳

香川県観音寺市生まれ。近畿大学を卒業。就職浪人の末、98年に報知新聞入社。芸能社会、中央競馬、ボートレース（1年だけ）、一般スポーツ担当を経て05年から2度目のボートレース担当に。競輪担当になって観音寺競輪取材することが夢だったが、無念の廃止に。